



## 建学の精神

「吾人の目標はキリスト教大学に非ず、  
『キリスト大学』活けるキリストに直接教育さるる大学を云う也  
決してキリスト教の知識を得る大学には非ざるなり  
キリストの私塾といふも可なり  
キリストの大学といふも可なり  
キリストによりて其感化を直接受けて人格を建造して行く  
キリストの教育薫陶を受ける学校是聖書を教科としキリストを教師と仰ぐ学校なり」

(仲里朝章『霊感魂闘録』1946)



沖縄キリスト教学院 校章・マーク  
十字架と百合はキリストの復活を意味します。中央の頭文字は校名変更でいったん OCJC になりましたが、2004 年（平成 16）沖縄キリスト教学院大学の設置に伴い、OCI (Okinawa Christian Institute) に統一されました。

## 学校法人 沖縄キリスト教学院

〒903-0207 沖縄県中頭郡西原町字翁長777

TEL : 098-946-1231 FAX : 098-946-1241



## 創立

沖縄キリスト教学院は、1957 年(昭和 32)沖縄キリスト教団によって、代表者仲里朝章牧師、設置場所 沖縄キリスト教団首里教会として創設されました。沖縄県における最初の私立高等教育機関であり、県内唯一のキリスト教主義高等教育機関でもありました。

第二次世界大戦の悲惨な経験から、戦争というものの愚かさや偏狭な国家主義の弊害を痛感し、その反省に立って、聖書の教えを基盤とする普遍的真理・人類愛・平和を希求する人材の育成を目標として掲げています。設立にあたった人たちは、「複雑にして矛盾の多い沖縄を国際的平和の島にするには、キリスト教文化が基礎をなさねばならないことは、世界史が教えている真理である」と考えました。そして、新しい沖縄の建設には、キリスト教の精神を身につけた人材の養成が緊要であることを確信して、この学校を設立したのです。

4 月 9 日に那覇市首里の首里教会において行なわれた開校式で、初代院長の仲里朝章は、「沖縄を国際的平和の島にするには是非ともキリスト教文化が基礎をなさねばならない。そこでわれわれは新しい沖縄の建設に直面して、キリスト教の精神を身につけた人材の育成が急務であることを確信して、この学校の設立を計画しました」という開校の辞を述べています。

1959 年(昭和 34)当時の琉球政府より財団法人として設立認可され、沖縄キリスト教学院短期大学にキリスト教学科が設置されました。専任教員 9 名、専任職員 2 名の小さな大学で、第 1 期キリスト教学科の卒業生は、わずかに 14 名(男子 5 名、女子 9 名)でした。初代院長兼理事長に就任した仲里朝章は、青年時代から内村鑑三の『デンマーク国の話』に感化を受けていました。「国際的平和の島 沖縄」のモデルとして、小国ながら高度な福祉社会国家を構築し、国際的な交流ができる人材が活躍するデンマークを考えていたのです。沖縄キリスト教学院のスタートは、まさに仲里の理想の第一歩でした。

1970 年(昭和 45)には(沖縄キリスト教短期大学)に改称し、キリスト教学科は残念ながら廃止されています。

## 創立の背景と歴史

1871 年(明治 4)明治政府は廃藩置県によって琉球王国を鹿児島県の管轄としたのち、翌年、琉球藩を設置して琉球国王 尚泰を琉球藩王に封じました。琉球を国家として扱わないというこの政策は、「琉球は古来中華帝国と朝貢していた」という清国の反発を生んだため、明治政府は 1879 年(明治 12)軍隊と警官を派遣して琉球藩の廃止を宣言し、鹿児島県に編入しました。いわゆる「琉球処分」です。琉球処分以降の沖縄においては、聖公会、メソジスト、バプテストを中心に、キリスト教伝道が盛んになされました。

初代院長兼理事長を務めた仲里朝章は、沖縄の首里当蔵(現・那覇市)の旧・琉球王国の士族の家に生まれました。日本への帰属を支持する開化党に属した家柄でした。沖縄県立第一中学校卒業後、1911 年(明治 44)鹿児島の第七高等学校造士館、東京帝国大学文学部史学科、同大学経済学部経済学科で学びました。1921 年(大正 10)友人の比屋根安定の導きでキリスト教と出会い、日本基督教会富士見町教会で植村正久牧師より受洗。卒業後の 3 年間は長崎の女学校で教鞭をとった後、東京の三輪田女学校に勤めました。

当時は、第一次世界大戦の反動による恐慌に関東大震災や世界恐慌が追い討ちをかけ、日本をはじめ沖縄の人々の生活を苦しめていました。沖縄では、毒性を持つ蘇鉄を食料にするほかないほど農村が疲弊しきっており、「蘇鉄地獄」と呼ばれる破滅的な経済危機に見舞われていました。ここから仲里の「沖縄救済論」が生まれ、その研究成果を沖縄出身の在京大学生と分かち合うために 1927 年(昭和 2)自宅で(耕南グループ)が組織されました。

父親の看病のため 1939 年(昭和 14)沖縄に戻り、那覇市立商業高校校長に就任。沖縄戦では軍の要請に応え、教え子たちを鉄血勳皇隊等へ派遣して、結果的に多くの生徒を戦死させてしまいました。自らの長女も、ひめゆり部隊の一員として戦死しています。このときの激しい後悔が、その後の仲里の原動力となりました。

1945 年(昭和 20)6 月、仲里は南部の喜屋村(現・糸満市)でアメリカ軍の捕虜となり、宜野座村の収容所に送られました。そこで、チャブレンのハイラー大佐や軍医のルニアン・ワグナーに出会い、伝道集会や日曜礼拝を始めます。また、沖縄初の男女共学の中等教育機関として惣慶中等学院(のちに宜野座高等学校)を創設しました。

1947 年(昭和 22)仲里は、正規の神学を修めていませんが、富士見町教会で長老を務め、戦中には無牧の首里教会で牧師代理を務めた経験から、按手札を受けました。これは、戦後「信徒の教会」として出発した沖縄のキリスト教の特徴といえるでしょう。

沖縄戦で、不本意ながら自分の教え子たちの多くを戦死させてしまったことへの深い後悔と反省が、仲里を平和運動へ駆り立てました。日本(本土)との行き来が自由ではなかった 1950 年(昭和 25)8 月、比嘉善雄や稲嶺一郎とともに、広島での第 1 回原水爆禁止大会に参加。また、賀川豊彦がかかわった世界連邦運動の主旨に共鳴し、世界連邦建設同盟の琉球同盟を組織しました。1951 年(昭和 26)沖縄のキリスト教界だけではなく各界の著名人に呼びかけて「世界平和促進大会」を那覇市で開催しています。



創立者 仲里朝章(1891~1973年)  
「キリスト教の知識ではなく、  
基督から感化を受けて人格をつくる学校を興そう」と  
言いました。

